

いと思います。

2) アブミ 骨筋反射よりリクルートメント 現象陽性で、内耳の感覚細胞レベルでの異常によると考えている。

3) 予後は、いままでの20年の経過から難聴の進行は考えにくいと思います。

7. 人工肺に人工血液 (PFC) を使用したときの血液凝固線溶系の変動について

(外科)

○木戸 訓一・河上 知昭・里村 立志・
上辻 祥隆・鈴木 忠・倉光 秀磨・
織畑 秀夫

急性呼吸不全に対し、通常、酸素療法、PEEP、利尿剤、副腎皮質ステロイド剤など各種の治療法が試みられているが、この疾患は依然死亡率が高い。そして、これら通常のいかなる方法でも改善できない急性呼吸不全に対し、人工肺による体外循環の応用が近年試みられるようになってきている。

しかし本法での重大な合併症のひとつに出血傾向があり、血小板の減少、血小板の機能不全、ヘパリンの使用などがその原因と考えられている。

演者は、雑種成犬を用いて、人工血液 (PFC) を体外循環の回路充填液として用いる人工肺の実験を行なった。そして、このときの血液凝固線溶系の変動を、血小板を中心として測定し、同種血を使用した場合と比較検討したので報告する。

8. 非陽性膀胱石について

(消化器内科)

○土岐 文武・大井 至・戸松 成・
進藤 仁・黒川きみえ・竹内 正・
小幡 裕

膀胱内に、単純X線撮影では描出されない膀胱様の陰影欠損を見る症例があり、私達はこれらを非陽性膀胱石と称してきた。非陽性膀胱石は、しばしば合流異常を伴う先天性総胆管囊腫の膀胱異常拡張部に認められるが、それ以外にも色々の膀胱疾患でも見られることがある。今回は、成分分析のできた4例の非陽性膀胱石の性状、成分、臨床像から、合流異常に合併した非陽性膀胱石や石灰化膀胱石との比較も加えて、非陽性膀胱石の特徴を検討した。

年齢は35~81歳、全例男性。非陽性膀胱石は、直径2~7mm、球状~不整形、軟~弾性軟、白色~黄土色で、個数は1~8個。いずれも、境界を持つ明らかな固形物で、蛋白栓とは性状を異にする。成分は73~95%が蛋

白、残りは CaPO_4 である。合流異常例にみられた非陽性膀胱石は、蛋白50%、 CaPO_4 5%、ビリルビン Ca 45%であり、通常の石灰化膀胱石では97%が CaCO_3 であつた。非陽性膀胱石は、1例は拡張した主膀胱内にあつたが、他は嚢胞内に存在していた。アルコール多飲は2例、PS低下は1例で、基礎疾患は、膀胱瘍、嚢胞を伴った副膀胱領域の up-stream pancreatitis, ventral pancreatitis, 慢性膀胱炎であつた。

非陽性膀胱石は、膀胱成分の変化も関与はしているが、嚢胞など膀胱液の貯溜する部位にできやすく、その成分は大部分蛋白であつた。臨床像や非陽性膀胱石の性状から、蛋白栓や石灰化膀胱石とは、成因、成生機序が異なると思われる。

質問 (第二生理) 菊地 録二

1) echo の検査をした場合、4例中2例しか検出できなかったのですが、これは膀胱石の質や大きさと関係しているのでしょうか。

質問 (座長) 吉岡 守正

2) 石灰化結石の主成分は磷酸カルシウムではないのですね。

応答 (消化器内科) 土岐 文武

1) 質 (成分) は特に変わりありませんでした。結石の存在部位も関連があるのではないかと考えております。

2) 炭酸カルシウムです。

9. 冷血動物のA線維とB線維の局麻薬に対する感受性の違いについて

(第二生理セミナー学生4年)

満尾 玲子・林 和代・平方 庸子

1980年 Gissen, Covino, Gregus は、伝導速度が速くて太いA線維が、伝導速度が遅くて細いB線維よりも、局麻薬による伝導障害に対して感受性が高いと発表した。これは、Gasser, Erlanger 以来の考えと全く異なるものであつた。

我々は、カエルの坐骨神経にキシロカインを投与して、伝導障害に対するA線維とB線維の感受性の違いを調べた。結果は1例を除くすべての例について、従来のGasser 等の見解と一致したが、1例のみは、Gissen 等の新しい説を支持するものとなつた。

この実験結果から、局麻薬による伝導障害に対する神経線維の感受性は、一般的に伝導速度が速くて直径の大きい線維ほど感受性が低いということを再確認した。実験結果の相違について考察する。

質問 (座長) 吉岡 守正